

事前復興計画のあり方に関する基礎的な考察

- 第 1 回事前復興計画研究会を通して -

A Fundamental Consideration toward Pre-Disaster Development Plannig:
Report on the 1st Workshop for Pre-Disaster Development Plannig

○金 玫淑¹, 田中 傑², 牧 紀男², 岸川英樹¹
Minsuk KIM¹, Masaru TANAKA², Norio MAKI² and Hideki KISHIKAWA¹

¹ 日本ミクニヤ株式会社

Nihon Mikuniya Corporation

² 京都大学防災研究所

Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

We held the 1st workshop for pre-disaster development planning in Wakayama city in the end of August, last year. About 15 experts or researchers participated in this meeting. Pre-disaster development planning means that stakeholders examine the possible disasters, all risks presumed, and so they debate about what measures to take to protect their life and properties from various danger. The purpose of this study is to clarify a concept and the ideal of pre-disaster development planning through the workshop.

Keywords : Pre-Disaster, Development Plannig, Recovery, Total Disaster Risk Management

1. 研究の背景及び目的

「事前復興」の先行研究者である市古氏¹⁾は、阪神・淡路大震災以降に展開した都市防災手法の一つに「事前復興まちづくり」があり、いくつかの事例報告はあるものの、その全体像を把握し、達成内容を系統的に検証した研究はみられないと述べている。また、市古氏ら²⁾は「事前復興」について合理的な手続きを経て導き出された被害想定を前にして、事前の「実践」と事前の「準備」をするという考え方から構成されていると考えることができることも述べている。

すなわち、「事前復興」に関する定まった定義はまだないが、災害に見舞われる前にじっくり時間をかけて被災した後の地域の復興像・復興計画を策定しておこうとする考え方・手法としての「事前復興」は阪神淡路大震災以降に存在し続けてきたことを意味する。

筆者らは繰り返し起こっている大規模災害後の復興事業の遅れが若年勤労世代の地域離れ現象を発生させ、被災地での人口減少が将来の地域の持続性を損なわせるという懸念から「事前復興計画」の策定の必要性を痛感した。本研究は事前復興計画で良い復興像を描き、長い時間をかけて復興計画を策定・共有することで、若い人の地域離れの現象を最小限に食い止めることを目論むものである。

そこで、筆者らは事前復興計画の策定に先立って先行研究・類似研究をしている研究者・実務者らとの交流を図り、事前復興計画の定義や内容、調査及び研究の方法論などについて意見交換を行う場として研究会を開くことを試みた。

本稿は昨年初めて開催した事前復興計画研究会における「事前復興計画」を巡る考え方に関する様々な意見を分析した成果報告である。

2. 第1回事前復興計画研究会の概要

2014 年 8 月 30 日・31 日の両日間に亘り、和歌山市 T-Labo にて第 1 回事前復興計画研究会が開催された。本研究会は将来的には「事前復興計画策定支援プラットフォーム」を目指すもので、今回は主に関西地方を中心として事前復興計画の策定実践・研究活動を遂行している研究者・実務者ら⁽¹⁾約 15 名が参加した。

研究会では最初に主催者が企画趣旨を伝え、次いで第 1 部では各自が考える事前復興計画の定義やその内容、並びに進行中のケーススタディに関する発表が続いた。その後、第 2 部では関係者ワークショップを通じて事前復興を考える上で大切な事を確定した。ワークショップ終了後には和歌山市・海南市を中心にエクスカーションを実施し、実地視察を通じた意見交換会を行った。図 1 は研究会の様子である。

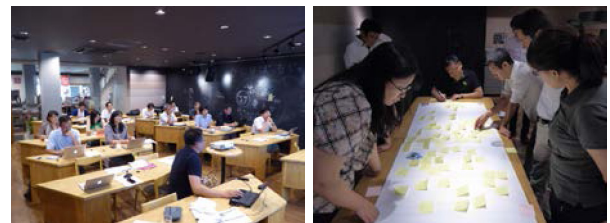


図 1 第 1 回事前復興計画研究会の様子（撮影者：田中傑）

3. 事前復興計画のあり方の抽出のための流れ

(1) Step1 事前復興計画に関する考え方の現状分析

研究会の第 2 部で実施したワークショップではまず各々の研究者が自分が考える事前復興計画に関する意見を附箋に書いた。次いで、それを一人ずつ読み上げながら類似した意見の附箋を出し合った（図 1 の右側写真）。これらの案を基に KJ 法にて類似したものや共通のキーワードごとに集約した。その結果、図 2 のように 9 つのカテゴリーに分けることができた。総意見数は 67 件で、

各カテゴリーごとの意見数は下記の通りである。

- I. 新しい国土・地域のパラダイムを創る（8）
- II. 仕組み・制度（19）
- III. 日常の延長（13）
- IV. 地域の文脈（6）
- V. 地域力（しぶとさ）（5）
- VI. 連携（4）
- VII. 教育（4）
- VIII. 筋トレ（6）
- IX. 多様な担い手（2）

上記の結果から「仕組み・制度」に関する意見が最も多く、次が「日常の延長」、「新しい国土・地域のパラダイムを創る」の順で、その後を「地域の文脈」と「筋トレ」に関する意見が占めていることがわかる。

これらの内容には既存の防災計画において改善すべきことは含まれているが、新たな考え方や手法の導入は見当たらず、各々の研究者や実務家が今までやってきた活動の延長線上で「事前復興計画」の策定を推進しているのが現状であることが判明した。

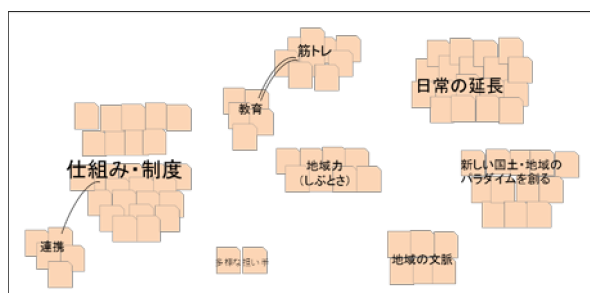


図 2 第 1 回事前復興計画研究会で集約された意見と KJ 法によるカテゴリーの確定

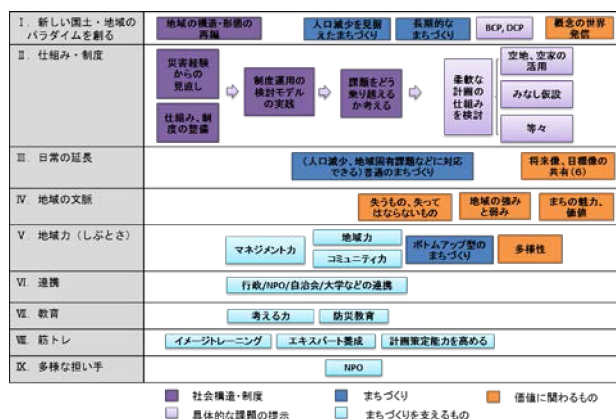


図 3 事前復興計画に関する考え方の構造化

(2) Step2 事前復興計画の目標の抽出と各種アイデアの構造化

次に、事前復興計画の策定において大切な事を確定するため、Step1 で分類したカテゴリー別の意見を改めて構造化したのが図 3 である。この図は、事前復興計画において大切な事は大きく 4 項目に分けることができることを示す。① 社会構造・制度の整備や運用（紫色）、② まちづくり（青色）、③ 価値に関わるもの（オレンジ色）で、④その他、これらを実践するなり支えるためのアイデア（薄青色、薄紫色）である。前記した①～③の項目

と I から IX までの各カテゴリーとのマトリックスを用いれば、各々が望む事前復興計画の目標を確定することができる。また、④項目とカテゴリーのマトリックスは事前復興計画の策定における手法を検討することができる。

4. まとめ

事前復興計画の策定は東日本大震災の復興事業が順調に進まない反省から多くの研究者が取り組もうとする事業である。しかし、前記したように、まだその動きがまだ活発ではなく、事前復興計画の策定と従来のまちづくり、防災活動との関係も曖昧である。

本稿では、すでに事前復興計画の研究や類似した研究に取り組んでいる専門家らのワークショップを通じて、事前復興計画に関する実状を把握するとともに事前復興計画の目標抽出や各種アイデアの構造化について考察した。

その結果、現在の事前復興計画において新たな考え方や手法の導入は見当たらず、各々の専門家が今までやってきた活動の延長線上で「事前復興計画」の策定を推進していることが明らかになった。しかし、KJ 法とマトリックスを用いたアイデアの構造化を通して事前復興計画の目標を 3 項目（① 社会構造と仕組み・制度の整備や運用、② まちづくり、③ 地域の潜在価値）に絞ることができた。

補注

(1) 第 1 回事前復興計画研究会の参加者は下記の通りである。

- ・ 参加者：牧紀男 教授（京都大学）、木多道宏 教授（大阪大学）、越山健治 准教授（関西大学）、松田曜子 准教授（関西学院大学）、紅谷昇平 特命准教授（神戸大学）、市古太郎 准教授（首都大学東京）、石川永子 特任准教授（千葉大学）、照本清峰 研究主幹（人と防災未来センター）、平田隆行 准教授（和歌山大学）、田中傑 特定研究員（京都大学）、金玖淑 研究員（京都大学）
- ・ オブザーバー：北原啓司 教授（弘前大学）、田中正人氏（都市調査計画事務所）、岸川英樹 氏（日本ミクニヤ株式会社）

謝辞：本研究は文部科学省「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト 1-c. 防災・減災対策研究」と一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所との共同研究「漁村における事前復興計画の策定及び普及手法の検討」の一環として行われたものである。また、第 1 回事前復興計画研究会の参加者の皆様に深甚なる感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 市古太郎「2000 年代に展開した「震災復興まちづくり訓練」の実施特性と訓練効果の考察：ポスト東日本大震災期の事前復興対策を考えるための基礎的検証」『都市計画論文集』47(3)、日本都市計画学会、2012 年 10 月、pp. 877-882
- 2) 市古太郎・小野田友美・村上大和・饗庭 伸・吉川 仁・中林一樹「事前復興論に基づく震災復興まちづくり模擬訓練の設計と試行：練馬区貫井での実践を通して」『地域安全学会論文集』6、地域安全学会、2004 年 11 月、pp. 357-366